

## 令和3年度 事業報告

### ○生活保護授産事業

生活保護授産事業では、昨年度より利用人数は増加したものの、一人あたりの支弁基準額が減少したことで、事務費収入の増加には繋がらなかった。しかし、生活保護授産事業の役割として、ひきこもりやアルコール依存症といった課題を抱える利用者の方々に対して、福祉事務所のワーカーや支援員と共に入所前から自宅訪問や面談を行ってきたことで、近年入所につながるケースも増えてきた。制度の狭間で困窮する対象者に対して直接的な働きかけを行うことで、地域のセーフティーネットとしての役割も担いながら、利用者の作業訓練や生活指導など円滑に行うことができた。

また、コロナ禍ではあるが、機能強化促進事業の取り組みとして、今年度も利用者のビジネスマナー研修を開催し、基本的マナーや社会性などについて学ぶことができた。

### ○障害福祉サービス事業(就労継続支援B型事業・生活訓練事業)

今年度を振り返ると、新型コロナウイルスの感染拡大により、利用者や職員の日常、事業所の生産活動などに多少なり影響はあったものの、「新たな生活様式」として、できないから「やらない」のではなく、工夫をしながら「やれる」ことを増やしていけるよう取り組みを行ってきた。新弁当棟の建設や施設外就労の拡大など、昨年度に引き続き、事務的には多忙なことも多い年ではあったが、成果として新たな取引先や機会が増えるなど実りも多い年となった。

新型コロナウイルス感染症対策としては、マニュアルの整備を行いながら、万が一に備えて迅速に対応ができるよう体制を整えてきた。昨年度に引き続き、分散休憩や手指消毒など当たり前ではあるが感染予防対策を図りながら、生産活動だけでなく余暇活動にも力を入れメリハリのある支援を行ってきた。おかげさまで、利用者や職員誰一人体調を崩すことなく前向きにやりがいのある一年を送ることができた。

また、B型事業の生産活動においても、今年度は平均工賃額が昨年度を1,683円上回る36,798円という結果となった。コロナ禍のなか、県の平均工賃額においても上位に繰り上がる成果となった。令和4年度、弁当事業の移転や従たる事業所の開所などで多少の生産活動の変動が予測できるため、今後も安定した仕事量の確保や維持に努めていけるよう関係者一同身を引き締めていきたいところである。

新しい建物、環境でスタートした生活訓練事業では、その活動内容やプログラムに共感する利用者またはご家族、支援関係者も多く、「障害があってもなくても」というインク

ルーシブな活動内容が利用者の居場所や居心地の良さに繋がっている。生活訓練事業の役割として、SSTプログラムやロールプレイングなどにより実践を通じて社会性などを学ぶ機会を増やし、利用者一人ひとりが自信を持って社会参加できるよう支援を行ってきた。今後も継続的に利用者が安定して通えるよう支援力の強化に努めていきたい。

#### ○相談支援事業(特定相談支援事業・一般相談支援事業)

相談支援センターやぶきでは、障がい福祉サービスを総合的に利用できるよう、基本姿勢に基づき初回面談やアセスメント、計画相談やモニタリング等を行った。コロナ禍の影響により、足を運び顔の見える支援を心掛け支援はしているものの、いまだ事業所によっては電話等による面談機会も多く、寄り添った支援の提供が難しい年でもあった。受け持ち相談件数174件と多い中、その煩雑な業務とは相反して収入は停滞、生活訓練事業と事務所が同室ということもあり、相互作用によって持ちつ持たれつの関係で事業を行ってきた。また、地域で必要とされる相談支援事業所のひとつとして新規の受け入れも迅速に対応するなど柔軟性のある業務を行うことができた。一般相談支援事業では地域移行支援や地域定着支援を行い、利用者が住み慣れた地域で当たり前の暮らしができるよう、24時間緊急時サポート体制などの対応を行ってきた。

中島村からの委託相談では、対象者の年金受給のサポート等を行った。また、近隣市町村及び地域の関係機関との連携を図り、各種会議や研修への参加も行き資質向上に努めた。

#### ○重点実施事項

##### ① 人材育成

前年度に引き続き、職員の資質向上を図るため、外部講師を招き人材育成の研修会を行った。コーチングに力を入れ、人間性や人間力の向上に努めた。またオンラインによる研修会等の参加、勉強会に時間をかけて職員全体の資質向上を図った。

##### ② チームワーク

職員としての横のつながりを強化するため、引き続き今年度も就労継続支援 B 型事業において、生産活動における部署(縫製班・加工班・施設外就労班・弁当班)ごとに職員1名をリーダーとして配置し、管理や責任を権限委譲し、リーダーシップを発揮していけるような仕組みを整えた。職員会議を月一回設け、上席がアドバイスやファシリテーター

ター役となり、職員同士ケース検討などで意見交換や討議を行いながら資質向上に努めることができた。

### ③ リスクマネジメント

コロナ禍における事業継続計画(BCP)の作成や、事業の継続や復旧を図るための計画、手順書等(マニュアル)の作成、整備を行った。(現在も整備中)

また、事故発生時の対応や安全確保についても迅速かつ誠実な行動が取れるよう、万が一に備えて、防災・防犯管理委員会が企画等を行い、臨場感のある避難訓練を毎月実施することができた。

6S活動の推進や働く環境の見直し等も行いながら、そこで働く「人」がやりがいや「楽しさ」に繋がるよう、必要なものは取り揃え、要らないものは取捨選択をしながら整理整頓を行った。クリーンな環境で一人ひとりが気持ちよく働けるよう整備を行いリスク回避に備えた。

### ④ 委員会活動

職員が各委員会に分かれて一年間に渡り、施設運営に役立つ活動が行えた。また、施設運営に参加する機会により、主体性を持ち改善活動を行いながら組織の活性化に繋げることができた。